

■ 第一回専門部会で話題に上がったこと その後、考えたこと。

【1】子育てを支援する生活環境整備

(1) 公共施設における「子育てバリアフリー」

■ お城横の市民プールが2つとも小学生には不向きな深さ。

利用者が少なく、よしみや豊前のプールを利用している市民もいる。

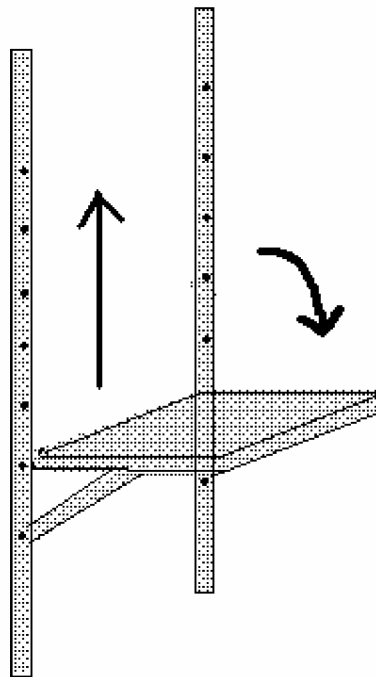
○ 大きいプールを浅くできないものか。

その後、数人の子どもや親に聞いてみたが、やはり同じ感想だった。

(2) 住宅のユニバーサルデザイン化

■ 3世代同居していた経験から、通常生活で一番困ったのは身長差による「高さ」のバリアー。

(例) 洗面所などの共有箇所で、子ども用に小さな踏み台を置くと、祖父がつまずいてしまう。一方、祖父は歯磨きなどもイスに座って行いたい、次に使う子どもはイスが重くて、動かせない。そこで・・・。



「壁取り付け型、スライド式踏み台」。

レバーなどで簡単に上下でき、イスにもなる。

- 市民から「こうあってほしい子育てにやさしい住まい」なんてアイデアを募集するのもいいかもしれない。市民を巻き込んでこそユニバーサル。

【２】職業生活と家庭生活との両立

（１）情報取得の一元化

保育園などの情報や【１】と関連する道路交通環境なども含め、どこにどのように問い合わせたらいいのかわからない。そこで、子育て支援の HP 広報活動の充実が必要。

→中津市の子育て支援課の HPをみてみました。

（感想）項目がはっきりしていて、わかりやすい。必要な情報を見つけやすい。

（これから望む点）市民と行政の双方向の情報交換がほしい。市民の声を聞けるコーナー、たとえば、失敗談、川柳などがあればいいかも・・・。

子育て川柳の作品例（現代教育新聞より抜粋）

- ・参観日 母、別人に 化けてきた
- ・「何処がいい？」 たずねる父に 「別にいい。」
- ・さずかって あずかっただけ たからもの

→また民間の中津 momNETの HPをみてみました。

（感想）「地元の母親ならではの情報を発信していきます」の言葉どおり、地域に根ざしたあそび、買い物、お医者さんなどの情報が得られる。

（これから望む点）ママだけでなくパパも含めた情報の広がりがあるといいかも・・・。

- ハブ空港が話題になっているが、中津の子育て情報もハブ化が必要な気がする。

（２）父親の意識の高まりが必要。（自省を込めて）

母性に頼りすぎ、母性を強要しすぎではないか？

男の勘違いがあるのではないか？

→広報活動で、そんな啓蒙があればいい。

広報誌・情報誌などがすぐに手に入りやすいようにしてほしい。

HPや、ノース FMの利用なども考えられる。